

令和7年度 東京都立田柄高等学校 学校経営計画（完成版）

学校経営計画策定の方針

- ・本校のスクールミッションとスクールポリシーに基づくこれまでの教育活動の成果と課題を踏まえ、継続性のある学校経営を念頭に置く。その際、本校の「多文化共生社会東京の中核となる人材の育成」「国際社会に貢献し活躍する生徒の育成」が目標とする「資質・能力」とは何かを改めて明確にし、スピード感をもって教育活動を行っていく。
- ・令和6年3月策定の東京都教育ビジョン（第5次）、東京都教育施策大綱ならびに本年6月に公表された「次世代の学びの基盤プロジェクト～『新たな教育スタイル』の確立に向けて～」を踏まえて、本校においても変化の大きな将来社会において生徒が自他の Well-being を実現することができる力の育成を目標に、学校教育のあり方を見直していくことを本校の中長期的な目標とする。
- ・教職員の働き方改革に取り組む現在、単に勤務時間外の在校時間削減のみが目標なのではなく、日々取り組む教育実践に手ごたえとやりがいを感じられることが教職員の Well-being につながると考える。社会のダイバーシティが広がる中で本校への期待も大きくなっていくことから、「選択と集中」という視点で取組の見直しを進めるが必要である。
- ・本年4月に示した今年度学校経営計画「暫定版」に加除修正（下線部分）を加えこの「完成版」を策定する。なお、当然のことながら「暫定版」を踏まえた取組がすでに進行中であるため、上述の方針から更に修正したい部分もあるが、それは今後の検討を踏まえて、次年度の計画に反映する。

| | |
|-----------------------|---|
| <p>スクールミッション</p> | <p>「規律ある学校生活の中で、確かな学力を身に付け、国際社会に生きる広い視野をもった人を育成する」を目指し、国際交流や異文化理解、日本の伝統・文化など国際理解教育を充実させ、多角的なものの見方や考え方を身に付け、国際社会に貢献し活躍する生徒を育成します。</p> |
| <p>グラデュエーション・ポリシー</p> | <p>「TAGARA から世界へ！ TAGARA から未来へ！」 1 規律ある学校生活 Step forward！前を向こう！ ①社会に信頼される人 ②たくましく生きる力を身に付けた人 2 確かな学力 Look up！上を目指そう！ ①基礎的な知識・学力のある人 ②向上心をもつ人 3 国際社会に生きる広い視野 Think globally！視野を広げよう！ ①多角的な視点をもつ人 ②変化に適応することができる人</p> |
| <p>カリキュラム・ポリシー</p> | <p>1 学校全体で目指す多文化理解 複数の外国語選択科目の設置や、異文化理解の事業を継続するとともに、生徒の国際感覚を養い、外国籍生徒の活躍の場を拡充していきます。また、外国籍生徒を全クラスに配置することで双方の交流等を促進し、日本文化への理解及び日本語能力の向上を図ります。 2 幅広い学力層への対応 入学する生徒の学力層が幅広く、希望する進路も多様となっています。このような幅広い学力層の生徒に対して、教育課程を統一することにより充実した多展開授業及び生徒の学力に応じたきめ細かな指導を実施し、生徒全員の学習機会と進路を保障していきます。</p> |
| <p>アドミッション・ポリシー</p> | <p>本校では、生徒一人一人の関心、適性、能力に合うよう、習熟度別・少人数授業を数多く取り入れ、きめ細かい授業を展開しています。また、地域に根ざす学校として社会に貢献できる生徒の育成を目指すとともに、国際理解教育を推進しています。このような特色のある本校で、以下のことをよく理解している生徒の入学を期待します。 1 規則を遵守し、自発的・主体的に考え行動できる生徒 2 学習に真剣に取り組み、自らの進路を切り開いていこうとする生徒 3 学校行事、委員会活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒 4 国際交流や日本の伝統・文化の授業に積極的に取り組む生徒</p> |

| 中期的目標と方策 | |
|---|---|
| 社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成① 1 全教科で、多角的な視野に立つ様々なものの見方考え方を習得、言語能力の向上、論理的思考力や国際社会に貢献できる資質・能力の育成を図る。 2 学校2020レガシーに基づき、 <u>コミュニケーション能力</u> 、ボランティアマインド、豊かな国際感覚、日本の伝統・文化への理解など、多文化共生社会の中核人材としての資質・能力の育成を図る。 | |
| 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 |
| 探究的・協働的な活動による学び合いの推進 ① 生徒による授業評価・校内研修・相互授業参観の実施により授業改善を行う。 ② 図書館や一人1台端末等を活用した探究的な学習及び協働的な学習により、生徒同士の学び合いを推進する。 ③ <u>日本語指導推進校として外国籍生徒等への日本語指導の更なる充実策を検討する。また、言語指導に留まらず特別な支援を必要とする多様な生徒への対応をめざしていく。</u> ④ <u>学力向上研究校として「校内寺子屋」対象となる生徒の基礎学力の獲得と定着を図るとともに、自習室支援等を充実させる。</u> ⑤ <u>スキルアップ推進校事業「グローバルスキル講座」及びJETを活用した実用英語技能検定受験支援を行う。</u> ⑥ <u>スキルアップ推進校事業「デジタルスキル講座」を活用してICTスキルを習得させ、自立的な学びへの活用を促していく。</u> 学校2020レガシーへの取組 ① 学校設定教科「グローバルスタディーズ」や東京体験スクールなどの国際交流により世界的課題への関心を高める。 ② 学校設定科目「日本の伝統・文化」により日本の伝統・文化への理解を深め、国際人としての素地を養う。 ③ 地域と連携し、ボランティアマインドの醸成、 <u>人間の多様性と社会の包摂性の理解</u> 、豊かな国際感覚を育む活動を行う。 | ○日本語指導の特別の教育課程、「多様な学びのスタイル」、自立した学習者を育てる学習指導の在り方等の検討委員会（WG）の立ち上げ。 ○教員相互授業参観 年5回以上/人 ○授業実践校内研修 年20回以上 ○各種検定受験指導 年20回 ○英検・漢検（準2級以上）及び日本語能力試験（N3等検定合格 年30人以上） ○生徒授業満足度 90%以上 ○生徒による授業評価等を踏まえた授業改善の具体を年度末に学校全体で共有し、公表する。 |
| 主な推進所管・担当 | |
| 各教科、各学年、進路指導部、教務部、日本語指導コーディネーター | |

| 中期的目標と方策 | |
|---|--|
| 社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成 ② 1 規律ある生活習慣と自ら考え行動できる力を身に付け、自立した社会の一員として国際社会を生きるために必要な資質・能力を養う。 2 多様な生徒が在籍する本校における人権教育を推進し、多文化共生社会東京の中核人材を育成する。 | |
| 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 |
| 規範意識の醸成と主体性の育成 ① 都立高校生活指導指針及び生徒指導提要に基づく生活指導を行う。 ② 規律ある生活習慣の確立と規範意識向上を目指し、遅刻指導、身だしなみ指導等を行う。 ③ 生徒会、委員会、部活動等、生徒が主体となる活動を促進し、生徒の主体性・協調性・実行力を養う。 ④ 関係機関と連携し、薬物乱用防止教室、セーフティ教室及び自転車通学指導（ヘルメット着用・保険加入・法規順守）を行う。 ⑤ 防災サポートチームを活用した防災教育を行う。 ⑥ 生徒・保護者とともに校則の点検と見直しを行う。 人権教育の推進 ① いじめや生命に関わる事故未然防止ため、SNSルールやSOSの出し方（相談窓口）の周知徹底、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカー・専門医派遣事業等を活用する。 ② 人権講話及び人権教育プログラムを活用した校内研修により校内の人権意識の向上を図る。 | ○遅刻者数 全HR平均が3人以下/日 ○部活動の加入率 50%以上 ○問題行動抑止 特別指導件数 年20件以下 ○校内美化キャンペーン実施 年3回 ○ <u>自転車通学生徒のヘルメット着用率・保険加入率 100%</u> ○地域と連携した防災活動 年1回以上 ○体罰事故防止研修の実施 年3回以上 |
| 主な推進所管・担当 | |
| 各学年、各教科、生徒部、総務部、防災教育推進委員会 | |

| 中期的目標と方策 | | |
|--|---|--|
| 社会的・職業的自立意識の醸成 1 3年間の計画的なキャリア教育により、多文化共生社会において自他の Well-being を実現する意欲を醸成する。 2 効果的な面談等を重ねることで、希望進路実現の道筋を把握させ、粘り強く取り組ませることを通して、自己の在り方・生き方を考えさせる。 3 日本以外にルーツをもつ生徒や社会的自立に支援を必要とする生徒に対して、効果的な個別支援を行う。 | | |
| 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 | |
| 外部機関と連携したキャリア教育 ① キャリアデザイン I、II、IIIによるキャリア教育実践で進路意識の向上を図る。 ② 多言語による情報提供、ハローワークと連携した相談体制等、多様な生徒に寄り添った取組を行う。 ③ スキルアップ推進校事業と JET を活用した英検指導、模擬試験や資格検定試験を活用した指導の充実を行う。 ④ 学年、分掌・委員会、特別支援教育心理士、スクールカウンセラー及びユースソーシャルワーカー（1名）の連携により、多様な生徒の進路実現を図る。 ⑤ スキルアップ推進校事業を活用したインターンシップによりビジネスコミュニケーションスキルの向上と職業観の育成を図る。「働くチャレンジプログラム」の活用。 ⑥ 入国管理局及びNPO 法人等外部支援団体と連携し、在京外国人生徒への進路支援を行う。 | ○進路決定率 100% ○三者面談の全員実施 ○自習室活用 200名以上 ○大学合格者 30名以上 ○職場体験・企業見学等参加者 80%以上 ○働くチャレンジプログラム活用 | |
| | 主な推進所管・担当 | |
| | 各学年、各教科、進路指導部、自立支援担当 | |

| 中期的目標と方策 | | |
|--|---|--|
| 学校行事の充実と部活動の振興 1 様々な学校行事や部活動に田柄ならではの「多様性」が反映する工夫を図ることをとおして、田柄の魅力を生徒が実感できるようにする。その経験をとおして自律的・主体的な実践力や協働する力等を高め、規律ある学校生活を充実させる。 2 地域行事への参加や学校行事の公開等により本校生徒の取組を地域に発信すると共に、生徒の地域理解を深める。 | | |
| 体力向上・健康づくりの取組 1 体育の授業や体育的行事、部活動をとおして、運動意欲や体力、基礎的な運動能力、競技力の向上を図るとともに、安全管理や食育により、生涯にわたる健康づくりの推進を図る。 2 学校保健活動及び教育相談活動を充実させ、生徒一人一人に届く心身の健康づくりを推進する。 | | |
| 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 | |
| 学校行事の充実と部活動の振興 ① 学習の成果発表として、体育祭、ロードレース大会、英語暗唱大会、百人一首大会、日本の伝統・文化発表会等を実施する。 ② 学校行事や部活動等の特別活動の充実により、主体的な実践力と協働する力を養う。 ③ 「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく指導を強化するとともに、各部活動において事故防止対策を徹底する。 ④ 学校2020レガシーの一環としてボランティア活動等、地域と連携した活動を行う。さらに「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」を活用した取組を行う。 | ○日本の伝統・文化発表会 年1回 ○生徒のボランティアや地域行事への参加 年5回以上 ○2020 学校レガシー講演会 年1回 ○コンディションレポートを活用した健康観察 生徒の活用 80%以上 ○定期健康診断受診 100%、要治療の受診率 50%以上 ○熱中症やアレルギー等による重篤な健康被害の発生ゼロ | |
| | 主な推進所管・担当 | |
| | 各学年、各教科、生徒部、総務部、各部活動顧問 | |
| 健康づくり ① 学校保健委員会、安全衛生委員会を確実に開催し、産業医からの必要な助言・指導を受ける。 ② 日本語を母語としない生徒に配慮した対応と情報発信を行う。 ③ 熱中症予防、感染症対策、アレルギー対応等について校内研修を実施し、安心安全な教育活動を推進する。 ④ 産婦人科医等による保健講話を実施し、からだに関する正しい知識を身に付けさせる。 ⑤ 学校設定科目「グローバルスタディーズ」により、SDGS「すべての人に健康と福祉を」についての学びと体験を行う。 | | |

| 中期的目標と方策 | | |
|--------------|--|--|
| V 募集・広報活動 | <p>魅力ある学校づくりと魅力の発信</p> <p>1 『『入れる学校』から『入りたい学校』へ』を合言葉に、学校環境・教育内容の改善・充実を図ることで「田柄らしさ」を拡大し、それらを中学生・保護者・地域に積極的に発信していく。</p> <p>2 ユニバーサルデザイン（ユーザビリティ・アクセシビリティ）の観点から、多様な志願者のニーズに応えるよう募集・広報活動を創意工夫する。</p> | |
| | <p>今年度の取組目標と具体的方策</p> | <p>関連する数値目標</p> |
| | <p>『入りたい学校』を目指した魅力発信</p> <p>① 平易な日本語やルビ対応の他、多言語による情報発信を行う。</p> <p>② ホームページの他、X（旧 Twitter）等、即時性のある情報発信ツールを活用する。</p> <p>③ ユニバーサルデザインの視点からホームページ・学校だより・学校案内パンフレットの改善を図る。</p> <p>④ 学校見学会・学校説明会・個別相談会の他、在京外国人生徒向けの相談会（説明会）等を行う。今後、学校HPでの説明会等の録画のアーカイブ配信も検討していく。</p> <p>⑤ 令和7年度都立高校 EXPO での情報発信</p> <p>⑥ 出身中学校別在籍生徒数及び中学校のニーズ（よりよい時期、必要な情報等）を把握しスケジュールの見直し等改善を図る。</p> <p>⑦ 都立高校魅力発信事業（PR 動画やフォトギャラリーなど）を活用した広報活動を行う。</p> | <p>○ホームページ更新 年 150 回以上</p> <p>○学校見学会・説明会実施 年 10 回以上</p> <p>○在校生による母校中学校訪問 練馬区立中全校</p> <p>○学校説明会来場者 年 800 人以上</p> |
| | | <p>主な推進所管・担当</p> <p>総務部、コンピューター委員会</p> |

| 中期的目標と方策 | | |
|------------|---|--|
| VI 教育課題 | <p>ダイバーシティとインクルージョン（多様性への寛容さ）の推進に欠かせないエクイティ（公正性）溢れる学校づくり</p> <p>1 <u>地域社会の多様性を尊重し、豊かな人間関係を築くことで自他の well-being を追求する意欲をもった「市民」を育成する。</u></p> <p>2 <u>生徒の多様性の拡大を見据えてDEI の観点から全取組の再評価を行い、田柄ならではの教育活動を進めていく。</u></p> | |
| | <p>今年度の取組目標と具体的方策</p> | <p>関連する数値目標</p> |
| | <p>日本語を母語としない生徒への支援</p> <p>① <u>日本語指導推進校事業による対象生徒支援の充実のためにコーディネーターを中心とした組織体制の充実を検討する。</u></p> <p>② <u>オンラインアセスメントテスト(J-CAT)の結果を踏まえ、習熟度別に放課後日本語指導を行う。</u></p> <p>③ 個別の指導計画と面談等により進路実現への支援を行う。</p> <p>④ <u>今年度から導入した複数副担任制を検証し、複数担任制やチーム担任制などの検討に着手する。</u></p> <p>⑤ 学力向上研究校「校内寺子屋」の取組を推進し、基礎学力の向上と定着に努める。</p> <p>⑥ <u>今年度ダイバーシティ推進校に指定された4校の取組に学び、特色ある科目の設置・体験を重視した教育活動・特別の教育課程の検討に着手する。</u></p> <p>個別の支援の推進</p> <p>① 多方面の支援充実のために、新たな教育資源の確保を図る。</p> <p>② <u>自立支援チーム、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカー、専門医、特別支援教育心理士等を活用した教育相談体制により、多様な生徒への指導を充実させ、中途退学を防止する。</u></p> <p>③ 通級による指導を必要とする生徒への校内体制を整える。</p> <p>④ 拡大する生徒の多様性に対応した指導・評価の在り方の検討</p> <p>⑤ 都方針「新たな教育のスタイル」の具体化の検討</p> <p>⑥ <u>制度改正を受けた不登校生徒の「学び保障」の具体化の検討</u></p> | <p>○<u>検討委員会（WG）の立ち上げ</u></p> <p>○日本語指導に関する授業研究等 年5回以上 オンラインアセスメントテストによる日本語能力の把握 年2回以上</p> <p>○<u>授業、校内寺子屋、日本語指導等の指導をサポートする外部人材の充実</u></p> <p>○自立支援チームによる相談年 150 回以上</p> <p>○生徒の<u>中途退学</u>を年 30 人以下に</p> <p>○都立版エリアネットワークを活用した<u>特別支援学校等との連携</u>年 5 回</p> |
| | | <p>主な推進所管・担当</p> <p>各教科、教務部、生徒部、自立支援担当、特別支援教育コーディネーター、日本語指導コーディネーター</p> |

| 中期的目標と方策 | |
|---|---|
| <p>学校経営における組織力の向上</p> <p>1 学校の組織的経営と効率化、事務業務の機能の充実と効率化及び学校経営計画に基づく予算編成・執行を行う。</p> <p>2 学校運営連絡協議会の充実と地域連携の強化により、課題解決に向けた適正な学校経営の改善と意思決定を行う。</p> <p>3 教職員のライフ・ワーク・バランスを推進するために、<u>業務のスクラップ&ビルドに取り組む。</u></p> | |
| 今年度の取組目標と具体的方策 | 関連する数値目標 |
| <p>組織力の向上</p> <p>① 企画調整会議を柱とした学校運営と組織的OJTにより人材育成を行い、課題解決に向けた校内分掌組織の再編を検討</p> <p>② 職員室と経営企画室との連携、事務円滑化、学校経営目標に基づく予算編成と執行等による経営企画室の経営参画を図り、全教職員の協力体制を構築する。</p> <p>③ 地域青少年対策地区委員会、警察署、消防署他、関係諸機関等、地域との連携を強化する。</p> <p>④ 「メンター制度」を活用した新規採用教員の支援と育成</p> <p>サービス事故防止</p> <p>① 保有個人情報の安全管理に関する基準等を基に事故未然防止に向けた取組を全職員で行う。</p> <p>② わいせつ・体罰等について生徒・保護者への相談窓口の周知と職員への校内研修及び面談等により、未然防止に取り組む。</p> <p>③ 入学選抜業務において、過去の事例やヒヤリハットを基に、校内体制の点検を行い適正に実施する。</p> <p>働き方改革・執務環境改善</p> <p>① 産業医との連携により、安心して働ける環境づくり、メンタルヘルス対策及びライフ・ワーク・バランスを推進する。</p> <p>② テレワークの推進により長期休業期間中の業務の効率化と育児・介護との両立を支援する。</p> <p>③ <u>複数担任制の導入や校内分掌組織の改編検討に着手する。</u></p> <p>④ <u>内環境整備や校舎老朽化への対応等、学習環境及び執務環境の改善を図る。</u></p> | <p>○<u>検討委員会 (WG) の立ち上げ</u></p> <p>○地域連携活動 年3回以上</p> <p>○一般需用費のセンター執行率向上 60%以上</p> <p>○<u>学校事故ゼロ、サービス事故ゼロ</u></p> <p>○学校満足度 生徒・保護者 80%以上</p> <p>○校舎老朽化・危険箇所の速やかな対応</p> <p>○サービス事故防止研修の実施 年3回以上</p> <p>○メンタルヘルスケアに関する取組 年6回以上</p> <p>○教職員アウトリーチ型相談事業 全教員が1回面談を実施</p> <p>○勤務時間外の在校時間「月45時間超」教員ゼロ</p> <p>○<u>各分掌・各学年から2つ以上の業務見直し提案</u></p> |
| 主な推進所管・担当 | |
| 各学年、各分掌、各委員会及び経営企画室 | |

VII 学校経営・組織体制

